

北海道立市民活動促進センターは、営利を目的としない、地域の様々な課題を自ら解決しようとする道内の市民活動を応援しています。

特集

道内で活躍する市民活動を紹介します

平成 24 年度の当センター事業で、道内で活躍している市民活動団体の活動を集録した「活きいきまちづくり～北海道の市民活動レポート 2012」(当センターホームページで閲覧できます)を作成しました。その一部を抜粋して順次ご紹介しています。

今回は「NPO法人もりねっと北海道(旭川市)」、「NPO法人食の絆を育む会(浦幌町)」、「MOKA.WP 釧路モカ女性プロジェクト(釧路市)」の3団体の活動をご紹介します。

NPO法人もりねっと北海道(旭川市)

～ 森を活かし、森と人をつなぐために ～

旭山動物園から東へ車で 10 分ほど。廃校になった中学校(旧旭川第一中学校)の保健室に、もりねっと北海道の事務所がある。廃校利用のために旭川市教育委員会が貸し出していた一室を借り受け、2011 年 5 月からこの場所を事務所としている。



旧旭川第一中学校内にある事務所

■ 森は持続可能な生態系

「森を活かす」「森と人をつなぐ」

もりねっとの理念だという。

森はきちんと手入れすれば、長期間にわたって恵みをもたらしてくれる「持続可能な生態系」であり、「おすそ分けをもらう気持ち」で資源を活用する。これが「森を活かす」こと。また、多くの市民が森について知り、森林と林業を紹介して、フィールドを体験してもらう場を作ることこそが、「森と人をつなぐ」こと。

もりねっと代表の陣内雄さん(46)は、1966 年

生まれ。東京芸術大学で建築を学んだ。東京の設計事務所に勤めたが、もともと持続可能な林業について関心を持っていたことから、東京での仕事に矛盾を感じて退職。ハンドメイドで家を建てたり、道内の林業を視察したりした。1993 年から下川町の森林組合に勤め、木材の加工販売に関する業務に携わった。

林業について、知れば知るほど、日本の森林は危機的な状況にあると、痛感するようになったという。

そうした危機感から、陣内さんを中心とする森林研究や林業に携わったメンバーで、「多くの人に、もっと森を知って欲しい」、「林業のあり方を考えたい」と、2006 年 12 月に NPO 法人「森林再生ネットワーク北海道」を設立した。2012 年 3 月からは名称を変更、「NPO 法人 もりねっと北海道」としている。

会の設立直後は、特に苦労したという。

まず、現状を知る必要があると、山主を対象にした聞き取り調査を行った。

しかし、「NPO? 何ですかそれは?」

相手にされなかった。

「だから、最初は教育大学の学生と一緒に、調査に出向いて、学生の勉強のために、などと口実を設けて会ってもらい、実は……我々はこういった団体でして、こんな調査もやっております……といった具合に、少しずつ知り合いを増やしていったのです」

(次頁へ続く)

「NPO法人もりねっと北海道」(旭川市)

「親しくなれば、いろいろ話を聞かせてもらえました。森林組合にすべて任せているからとっていた山主さんがやっぱり、もっと管理して欲しいとか、収入が少ないとか。いわば、眠っていたニーズを掘り起こしていったのです」

■ 森づくりの支援活動を実施

現在、もりねっとの会員は140人。森づくりに関する相談や支援、そして森を人々に知ってもらう活動を行っている。

森の用途は、木材生産だけでなく、子供の遊び場を作りたい、森の中に家を建てたいなどいろいろあり、そうした人のために森の活用方法から手入れの仕方など、それぞれに合ったやり方を提案する。さらに、森にやさしい林道の作り方や、林業機械を使った集材方法も研究、森づくりの支援に役立てようとしている。

また、旭川市と比布町の境界にまたぐ突哨山（とっしょうざん）の指定管理業務を、旭川市から引き受けており、実際に森を運営している。

森を知ってもらう活動。具体的には、突哨山での間伐体験や、山菜採り（5月）、薪割り体験（7月）、丸太での椅子づくり体験（9月）などのイベントを年間を通して行っている。



厳寒の中突哨山で行われた間伐体験

■ 薪ストーブのある暮らしを

森を知ってもらう活動の一環として、最近力を入れているのが薪ストーブのある暮らしを応援する「薪クラブ」の運営である。

薪といえば森林破壊をイメージさせてしまうかもしれないが、森を破壊するような伐採ではなく、森の生態系や資源を守るための伐採であれば、薪は森の恵みともなる。

石油を使用すれば、その利益は産油国に行ってしまうが、薪の代金は森で働く人の賃金や手入れの経費として、「全額地元で回ります」と陣内さん。

灯油のように電話一本で配達されたり、自動運転だったりする手間いらずのストーブとは違います。覚悟が必要です」

スタッフの清水省吾さん（26）は力を込める。

室内に薪や掃除用具を置く場所や、外に薪をストックするスペースが必要だという。煙突掃除もしなければならぬ。それに、一番重要なのが薪の調達。割ったものを購入すると、ほかの燃料よりも高くなってしまう場合もあり、自分でやらなければならない。

だからこそ、薪ストーブに関するノウハウを教えるために「薪クラブ」を設立・運営しているという。

■ 森を有効に活用すべき

「森林保全に関することは、一般的に『総論は賛成！』です。でも各論は『分かりません』なのです。大部分の人が、森林について、何をどうすれば良いのか分かっていないのが実情です。だからこそ、裾野を広げて子供たちにもっと教え、森のことが分かる大人になって欲しいのです」

「植樹して『これで良かったね』で、お終いにするのではなく、森があるのだから、有効に活用すべきなのです。それこそが長期的に森を守る方法で、そこに雇用も生まれるのです」

■ 連絡先

〒078-1273 旭川市東旭川町米原 517
 (旧旭川第一中学校内)
 NPO 法人 もりねっと北海道
 代表 陣内 雄 (じんのうち たけし)
 TEL/FAX 0166-76-2006
 Email : jin@morinet-h.org
 URL : <http://www.morinet-h.org>

「NPO法人食の絆を育む会」(浦幌町)

NPO法人食の絆を育む会(浦幌町) ～十勝が舞台!「農村ホームステイ」から 食の大切さを学ぶ～

どこまでも広がる大地に、海、山――。

十勝という食材に恵まれたフィールドを活かし、若い世代に思い出と食の大切さを伝えようとしている団体がある。高校の修学旅行などを通じて生徒たちを十勝管内の農山漁村で受け入れ、学校教育と連携して行う「農村ホームステイ」事業を展開するNPO法人「食の絆を育む会」だ。



子牛にうれしそうにミルクをあげる女子高生

ホームステイ自体は、2009年から理事長の近江正隆さんがノースプロダクションという株式会社で、「一般人を対象に『食』を育む農林漁業を、生産地十勝で農村ホームステイ体験してもらうことによって理解を深め、消費者と生産者との絆を育んでもらうこと」を目的に実施したのがはじまり。

2012年、3月30日にNPO法人として認証され、登記は4月6日。

平成21年度(2009年)に試験的に受け入れたのは大阪の東百舌鳥(ひがしもず)高校。このときはまだ、ラフティングなどと共に体験メニューのひとつに組み込まれ、25人が参加しただけだった。受け入れも浦幌町のみ。平成22年度は3校1000人が体験。平成23年度はさらに増え、6校2000人、昨年度も6校2000人が参加した。

平成22年度からは受け入れ地域も拡大して、現在では音更町、清水町、新得町など16市町村までになっている。会は、受け入れ家庭のある地域協議会の10団体で構成されている。平成25年度は、受け入れ家庭がさらに増える予定だという。

■ 家族のようなふれあいの時間

ホームステイは1泊2日が基本。ひとつの家庭で2～3人を受け入れる。受け入れ家庭には、生活体験に係る実費が支払われる。現地に着くとまず入村式を行い、その後各家庭へ移動する。受け入れ先によって体験作業は変わるが、畑作農家だと収穫の手伝いやトラクターの試乗、山村では林業について教わったりするなど様々。

こうした仕事の現場での体験を通じ、食とのつながりを肌で感じたり、生産者の話を通じて、現場の苦労も知ることができる。

作業が終わると夕食。生徒と受け入れ家庭が共同で調理をすることで家族のようなふれあいをもつことができる。次の日も作業し、最後は閉村式をして、受け入れ家庭が生徒たちの見送りをする。



家族と食卓を囲むということ自体が生徒には新鮮にうつる

(次頁へ続く)

「NPO法人食の絆を育む会」(浦幌町)

■ さらに食の理解深める

「事後学習」

終了後の感想では、「楽しかった」の声が最も多いが、都会からきた生徒たちにとって、3世代が同居して家族みんなで揃ってごはんを食べることや他人の家で生活すること自体が貴重な体験で、家庭の温かさを感じるのか、見送りの際には涙を流す生徒もいるという。「ありがとう、またくるねという言葉と共に泣いてしまう生徒も少なくありません。一緒にいる時間は実質10時間ほどにもかかわらず、泣いている姿には驚きました」と事務局の関谷繁さん。

この体験を通じて就職に農林水産業を選んだり、十勝に住みたいと大学を受験する生徒、今まで苦手だった野菜類が食べられるようになった生徒もいたそう。ホームステイが終わった後でも手紙や年賀状のやりとりをしたり、再会したりするなど交流が続いている。

こうした体験を通して生産者が身近な存在になるのを一過性のもので終わらせるのではなく、体験を振り返り、より食やそれらを育む営みの大切さを伝える「事後学習」事業にも力を入れている。近江理事長が各高校を回って、食の大切さの講義や受け入れ家庭からのビデオレターなどを流すことで、生活体験を振り返ったり、食や農業を考えるワークショップを行ったり、農村から取り寄せた食材を使った家庭科実習などを実施したりしている。



「ありがとう、また来るよ!」。たった1日でも受け入れ家庭との別れは名残惜しい

■ 受け入れの輪を広げる

現在、受け入れ家庭を増やすために、農閑期に説明会を開いたり、地道な活動によって裾野を広げている。

生徒の感想文やお礼状を読むことで「また来年も」と受け入れ家庭のリポートにつながっている。しかし、受け入れ家庭の中には、生徒たちに振る舞う料理なども含めて、つつい力を入れてしまい、疲れてしまうところもあるという。

さらに修学旅行時期の9、10月は繁忙期とも重なる。こうした課題を解決するために、2年、3年目の受け入れ家庭と初めて受け入れた家庭同士で、「こんな体験をさせてあげた」「こんな食事で喜んでくれた」などといった意見交換の場を設けた。

「受け入れ家庭の負担が増えると、今後この事業を続けていけなくなってしまいます。なるべくありのままの日常で受け入れてもらいたいのです。理想は、ひとつの家庭で年に1～3回の受け入れだと受け入れ家庭の方たちも話しています」

「食の大切さを伝えるために、活動の主体である受け入れの輪を広げて十勝全域で共通認識をもちながら、細く長く続けていきたいですね。ただ、この事業の主体はあくまでも農林魚業を営んでいる方々であって、私たちはその活動のお手伝いをさせていただいているだけです」と関谷さん。

農村ホームステイを実施する市町村は他にもある。しかし、十勝の誇る食と体験学習のコラボは、北の大地と都会を結ぶ新たな活動として輝きを増している。

■ 連絡先

〒089-5601 十勝郡浦幌町字宝 53-26

NPO法人食の絆を育む会

代表名 近江 正隆

TEL 0155-78-7955

FAX 0155-78-7956

Eメール info@shokuhug.com

URL <http://www.shokuhug.com/>

「MOKA. WP 釧路モカ女性プロジェクト」(釧路市)

MOKA.WP 釧路モカ女性プロジェクト (釧路市)

～自分らしく生き生きと輝きたい！

女性の力を地域の元気に～

「もっと大きくかっこよくありたいウーマンズプロジェクト」——。それぞれの言葉の頭文字を取ってつけられたのが「釧路モカ女性プロジェクト」。女性が元気で生き生きと生活することを目指し活動している。「そのゴロ合わせに全てが集約されているような集まりですね。こうありたい！という希望が先にありますね」と語るのは、代表の森崎三記子さん。実はこれは後付けで、初めてメンバーで会った釧路の老舗の喫茶店の名物であるモカソフトから名前をとり、メンバーの集まりも「モカ」と呼んでいたのがそのまま使うことに。

■ 女性の悩み相談がきっかけ

活動が始まったのは、2011年の5月のこと。

普段はハローワーク釧路で嘱託職員として、仕事と子育ての両立をサポートするマザーズコーナーで個別相談業務をしている森崎さん。色々な年齢や立場の母親などからの相談がある中で子育て中や、家庭と両立しながら仕事をしたいという人、シングルマザーも多い中で、一番強烈に感じたのは、小さい子供がいるという理由だけで、応募してもなかなか採用にいたらないということ。「思いはあるけれど、働けない、何かしたいという人はすごく多い。一人ではできないけれど、仲間がいればできるとか、何かみんなで話しているうちにアイデアにつながるのでは？という単純な発想から5人で始めました」と森崎さん。

現在メンバーは、20代から50代までの15人。育児中、介護中、シングルマザーなど一人一人立場は異なるが、その人の持っている得意分野やその人らしさを発揮できる、これなら私は輝けるというものがある女性を目指して、月に一度は定期的に集まり活動している。



月に一度のミーティングから様々なアイデアも

■ 地域活性化に魚網タオル

「全国的に地方の都市はそうかもしれませんが、釧路も住んでいると、どんどん衰退しているような感じがします。だったらここで女性の力を集結して、元気になるようなことをしたい。人が元気にならないと町も元気にならないのでまず私たちが元気になること」(森崎さん)

その地域活性化につながるのではと期待をかけているのが、「釧路女性活性化プロジェクト」事業の一環として行っている魚網タオルの企画・開発。ネーミングは観光用に意識して「よっ！魚網美人！」「幸(しあわせ)たわし」とユニークだ。

釧路といえば漁業。その漁業に欠かせない網を地域資源の活用につなげ、それを女性視点で商品化につなげたいと目をつけた。



魚網タオルは釧路市内の様々な場所で販売されている

(次頁へ続く)

「MOKA. WP 釧路モカ女性プロジェクト」(釧路市)



手軽に作れる魚網タオルはリハビリにもぴったり

「魚をとる網は、サイズを決めて作るのですが、網が余ってしまいます。その余った網で何かできないかと考えていたところ、知人に網を使ったからだ洗いをもらいました。「これだ!」と思い、それをヒントに作ってみようと挑戦することにしました」と森崎さん。

釧路市内や厚岸町の網屋さんから、半端になった魚網をもらい、細いロープでつなげて作る。網が大きいので切る作業に時間がかかるが、その作業を終えてしまうと、10分~15分ほどでできる。昨年からは魚網タオルの作り方教室を開き、市内のデイサービスセンターで高齢者たちと共に作った。

現在は、釧路市漁業協同組合の直売店や、職場の人たちに300円というモニター価格で販売している。そこで得た色々な意見を参考に改良を加え、商品化していく。このタオルは評判が良く「素手で石鹸をつけるより泡がやわらかく、フワフワになります。水切りもいいですし、バスタブ洗いとか小さくしてなべ底やコップなどの食器洗いに使ってもいい。いろんな物に変化します。それになんといっても長持ちしますね」と事務局長の栗山エリさんはアピールする。

「もしも販売ルートにうまくのせることができれば、子供のそばでお母さんたちが集まって作ることができるし、ハローワークで多くの問い合わせがある内職仕事にもなります」

今後は、夢として500円から600円で、駅や空港、阿寒や川湯などの温泉宿でも販売し、釧路だけではなく、北海道の特産になればという。

■ 期待高まる「女性リーダー養成」講座

このほか力を入れている企画として「女性リーダー養成」講座がある。

2012年の12月には第一弾が行われた。この講座が、これらを学ぶだけではなく、志を同じにする女性同士が集うことで、新しいつながりや共感などが生まれ、女性の新たな居場所になればと期待している。

今は釧路市内の公共施設を借りて活動している。

「就業支援の相談もできますし、保育の資格を持っているメンバーもいて育児の相談にも乗ることができます。それぞれの立場でアドバイスできるメンバーがいます。釧路に転居してきたばかりで右も左もわからないといったちょっとした悩みでも『困ったらモカに行け』みたいな居場所になればいいですね」と栗山さん。

彼女たちの出発点となった喫茶店のように、ホッと一息つける居心地のいい場所から羽ばたく女性たちが、釧路を活気あふれる街にすることを期待したい。



2012年12月に行われた女性リーダー養成講座の様子

■ 連絡先

〒085-0813 釧路市春採2丁目34-11
(事務所)

MOKA. WP
釧路モカ女性プロジェクト

代表名 森崎三記子

TEL 0154-35-0045

Eメール

kushiro-moka-wp@mail.goo.ne.jp

URL <http://mokawp.blog.fc2.com/>

センターインフォメーション

◆当センターの事業等のお知らせ◆

●NPO 法人設立基礎講座●

「市民活動の基礎からNPO法人設立までを一緒に学びませんか」受講者募集中！

コミュニティづくりやボランティア活動、NPOなどの市民活動に関心のある方やNPO法人設立を考えている方などを対象に「NPO法人設立基礎講座」を開催します。

本講座は、市民活動の基本的な知識からNPO法人設立に必要な手続きや申請書類等について学びます。

■日 時

平成25年12月14日(土) 14:00~16:00
 平成26年 2月28日(金) 18:00~21:00
 ◎各日程同一内容です。ご都合の合う日程でお申し込み下さい。

■場 所:「かでる2・7」 1040会議室
 (札幌市中央区北2条西7丁目)

■内 容: 講義
 「NPOの基礎知識とNPO法人設立に必要な要件や申請手順のポイント」
 講師 東田 秀美さん
 (NPO法人旧小熊邸倶楽部理事長)

■参加料: 300円

■定 員: 各30名(先着順とします)

■対象者: 市民活動に関心のある方
 市民活動実践者
 NPO法人設立を考えている方

■主 催: 道立市民活動促進センター

当センターでは、市民活動に関する 疑問・質問に相談員がお答えしています。

「NPOって何ですか?」「ボランティア募集の情報を知りたい」「助成金に関する情報を得るにはどうしたらいいの?」「市民活動団体の運営についてアドバイスを受けたい」「現在の活動団体をNPO法人化したい」など、市民活動に関わる相談にお答えします。

来館または電話、FAX、メールなどで、お気軽にご相談下さい。

- ・TEL: 011-261-4440
- ・FAX: 011-251-6789
- ・E-mail: center@do-shiminkatsudo.jp

ホームページで情報発信中の 「北海道市民活動団体情報提供システム」

このシステムは、道内のNPO法人と市民活動団体の情報を提供しています。

当センターのホームページトップ画面の画像下の「北海道市民活動団体情報提供システム」をクリックしてください。

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/>



【検索機能】

- ・団体名、活動分野、地域、キーワードによる市民活動団体の情報検索が可能です。
- ・NPO法人の定款、事業報告書、財産目録、貸借対照表、活動計算書/収支計算書の閲覧が可能です。
- ・各団体のイベント情報、ボランティア募集情報の閲覧が可能です。

【登録すると】

- ・団体の活動のPRやイベント、ボランティア募集等の情報発信が可能です。
- ・どこからでもログインして情報(イベント・ボランティア募集情報等)の入力・編集が可能です。

●是非、ご活用ください。

◆ 助成金情報 ◆

●花王／公益財団法人都市緑化機構●

「花王・みんなの森づくり活動助成」

次の世代により良い環境を引き継ぐことを目的に、市民による緑を守り、育てる活動を応援するものです。

■助成対象団体

国内で身近な緑を守り、育てる活動（森づくり活動）と身近な緑を活用し、子どもたちに緑との触れ合いの機会を創出する活動（環境教育活動）に取り組んでいる団体

■助成対象活動

身近な場所での市民による「森づくり活動」と「環境教育活動」の2つの分野で地域社会に寄与するもの

- ・「森づくり活動」：植樹や樹木の管理、里山や雑木林などでの保全と復元活動など
- ・「環境教育活動」：緑地や里山をフィールドとした環境教育活動で、植樹や里山保全活動などを通じて環境を大切にすることを育む活動など

■助成金額・団体数

1団体あたりの助成金は、50万円（1年目）を上限とし、15～20団体程度の助成を予定

■応募期限：2013年10月31日（木）

■応募先：公益財団法人都市緑化機構

「花王・みんなの森づくり活動助成」事務局

TEL：03-5216-7191

FAX：03-5216-7195

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい

<http://www.urbangreen.or.jp/>

●公益財団法人損保ジャパン記念財団●

2013年度社会福祉事業

「認定NPO法人取得資金」助成

地域の中核となり、持続的に活動する質の高いNPO法人づくりを支援して参ります。

■助成対象団体

社会福祉分野で活動し、認定NPO法人の取得を計画している特定非営利活動法人

■助成内容

「認定NPO法人」の取得に関する費用であれば、使途は問いません。

(注)会合費、人件費、器材費その他一切使途は問いません。ただし、原則として2015年3月末までに所轄庁（都道府県・政令指定都市）に、「認定」の申請を行うことが必要です。

■選考基準

選考の際は、主に以下の点を総合的に考慮します。

- ・団体の過去の活動実績
- ・団体としての将来性、地域課題解決への貢献度
- ・認定取得に対する取り組みの進捗
- ・認定後の「認定NPO法人」の活用方法

■助成金額：1団体30万円とします。(総額600万円を予定)

■応募期限：2013年11月15日（金）

■応募先：公益財団法人損保ジャパン記念財団

TEL：03-3349-9570

FAX：03-5322-5257

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい

<http://www.sj-foundation.org/>

●日本たばこ産業株式会社（CSR推進部）●

「2014年度 JT NPO 助成事業」

地域社会を支えている人々や次世代の社会を担う人材を対象とし、地域と一体となって「地域コミュニティの再生と活性化」に取り組む事業を支援します。

■助成対象団体

- ① 公益性を有し利益を追求しない非営利法人であること
- ② 2013年9月30日時点で、法人として1年以上の活動実績を有すること
- ③ 法人の設立目的や活動内容が、政治、宗教、思想などに偏っていないこと
- ④ 事業実績期間：2014年4月1日～2015年3月31日に実施を計画している事業であること

■助成対象事業

非営利法人が日本国内において、地域社会の核となって実施する地域コミュニティの再生と活性化につながる事業

■助成金額・件数

1件あたりの上限額 150万円、40件程度

■応募期限：2013年11月20日（水）必着

■応募先：日本たばこ産業株式会社

CSR推進部 社会貢献室

TEL：03-5572-4290

FAX：03-5572-1443

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい

<http://www.jti.co.jp/csr/contribution/social/npo/index.html>

●公益財団法人キリン福祉財団●

「平成26年度キリン・子育て公募助成」

“地域”“子育て”“ボランティア”をキーワードとして、地域における、子どもに関わる幅広い活動に対して助成します。

■助成対象団体

民間団体で4名以上のメンバーが活動する団体・グループであればNPO等の法人格の有無、および活動年数は問いません

■助成対象事業

地域における子育てに関わるボランティア活動
「地域」「子育て」「ボランティア」の3つのキーワードに合致するもの

■助成金額

1件あたりの上限額 30万円(総額3,500万円の予定)

■応募期限：2013年11月10日（日）

■応募先：公益財団法人キリン福祉財団

TEL：03-6837-7013

FAX：03-5343-1093

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい

<http://www.kirinholdings.co.jp/foundation/>

今回の掲載情報以外の助成金情報や北海道庁からの役立つ情報なども随時更新中です。ぜひアクセスして下さい。

◎ 北海道立市民活動促進センターのホームページ

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/>